

JSDA

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

57
Jul.2019

-
- ② 特集 通常総会開催される

 - ⑦ 特別寄稿 株式会社 石本建築事務所
業務企画部門次長
環境統合技術室次長 東原 理子 氏
「建築の完成について考える」

 - ⑧ 新会員企業紹介コーナー

 - ⑨ 第7回 会員企業紹介コーナー

 - ⑫ スポットライト シャッターの使用状況調査 2018



特集

通常総会開催される

さる5月21日(火)午後、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門において、(一社)日本シャッター・ドア協会の2019年度通常総会が開催された。続いて、協会表彰・記者会見が行われた後、夕刻より懇親会が開催された。



2019 年度通常総会

15時より、グランドアーク半蔵門において、第一種会員および監事の出席のもと「2019年度通常総会」が開催された。通常総会では、長野会長が議長を務め、報告事項として2018年度事業報告が了承された後、決議事項として第1号議案「2018年度決算承認の件」、第2号議案「役員(理事)選任の件」が諮られ、それぞれ原案通り承認された。次にその他報告事項に移り2019年度事業計画および2019年度収支予算、防火設備の検査報告制度、技能検定制度、防火シャッター・ドア保守点検専門技術者講習会受講資格不足者、2019年度協会表彰、会員の状況等について報告された。総会后、同会場において2019年度協会表彰に移り、優秀工事従事者表彰9名と協会委員表彰4名の表彰が行われた。



17時より、日刊紙、業界紙16社の参加のもと、定例記者会見を開催した。会見には長野会長、潮崎副会長、亀村専務理事、後藤常任理事が出席し、長野会長は冒頭で、「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者制度」においての受講資格詐称による資格の不正取得についてお詫びの言葉を述べた。続いて、今年度、当協会を取り巻く環境については、東京オリンピック・パラリンピックを来年に控え関連施設の引き渡しの本格化、大型オフィスの竣工のピークが重なること。また、防火設備の検査報告制度の本格運用が始まることで、会員各社は過去に例を見ないほどの需要が増大していくのではないかと言及した。続いて、亀村専務理事より2019年度事業計画について説明が行われ、質疑応答を経て記者会見は終了した。

2019年度懇親会が開催される

18時からは会員ら約200名が出席して、懇親会が開催された。山崎事務局長の司会により開会され、長野会長は冒頭「防火シャッター・ドア保守点検専門技術者制度」における受講資格不足者の件でお詫びの言葉を述べた後、今後は再発防止と適切な制度の運用を通じて信頼回復に努めるとの決意が示めされた。続いて出席頂いた方々への御礼と新任理事のご紹介のほか、業界の動向についての報告が行われた。その後潮崎副会長の乾杯の発声で歓談に移り、会の途中では2019年度優秀工事従事者および協会委員表彰者が紹介された。歓談は終始和やかな雰囲気の中、小松副会長による中締めにより、懇親会はお開きとなった。



2019年度 協会表彰

本年度は、優秀工事従事者協会表彰として9名、協会委員表彰として4名が表彰された。

■ 優秀工事従事者協会表彰

菅野 悠太氏 (推薦:三和シャッター工業)
 麻植 勝氏 (推薦:三和シャッター工業)
 中村 達也氏 (推薦:三和シャッター工業)
 松本 健吾氏 (推薦:文化シャッター)
 長友勝一郎氏 (推薦:文化シャッター)
 俵谷 章史氏 (推薦:東洋シャッター)
 三浦 真弥氏 (推薦:LIXIL 鈴木シャッター)
 山本 延介氏 (推薦:金剛産業)
 山本 将寛氏 (推薦:日本フネン)



菅野 悠太氏



麻植 勝氏



中村 達也氏



松本 健吾氏



長友 勝一郎氏



俵谷 章史氏

■ 協会委員表彰

山本 誠一氏 浸水防止用設備委員会
 大同機工(株)
 砂留 誠氏 メンテナンス委員会
 金剛産業(株)
 小森谷聖二氏 業務委員会
 (株)LIXIL 鈴木シャッター
 吉竹 直行氏 高速シートシャッター専門委員会
 ワールド工業(株)



三浦 真弥氏



山本 延介氏



山本 将寛氏



山本 誠一氏



砂留 誠氏



小森谷 聖二氏



吉竹 直行氏

2019年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火・遮煙等の防災機能といった重要な役割を担っている。

当協会は1964年に社団法人日本シャッター工業会として設立され、2000年には社団法人日本シャッター・ドア協会として新たにスタートし、今日までシャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックは既に膨大なものとなっており、新たな供給への対応と併せて、ストック対策が極めて重要となっている。

シャッター及びドアは、的確な保守・点検により期待された機能が確保されるものであり、保守・点検が必須である。このため、当協会では、2006年度に点検法制化推進本部を設け、以来、シャッター及びドアの点検制度について検討・提案を行ってきた。

2016年6月より改正建築基準法が施行され、防火設備に関する検査制度が開始された。当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう、会員及び関係者の協力を求めている。

防火設備の検査資格者の講習制度の一環として位置づけられた実技講習については当協会が（一財）日本建築防災協会より委託を受けて、昨年度は、2019年1月より実施した。本年度も引き続き実施していく。

シャッター・ドアの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッター・ドアの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。また、協会が技能検定に先駆けて行うシャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

消費者安全調査委員会より意見のあった重量シャッターJIS、軽量シャッターJISへの安全装置等の規定化に向けて、JIS原案作成委員会を運営し、改正JIS原案を作成する。

防災事業の一環として浸水防止用設備の普及が重要であることから、浸水防止用設備のJIS制定に取り組んでいく。

当協会の会員を取り巻く状況については、中国経済の減速などを背景に景気は足踏みしている中、業績はおおむね堅調に推移していると思われる。

このような社会経済情勢の下、本年度も、会員相互の協力により設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高め、より一層社会に貢献したいと考えている。

第一章 定常的事業

1 調査研究普及事業

シャッター、ドア及び防火設備に関する調査研究、技術基準等の策定、製品安全への取り組み、維持管理における安全対策の推進等を行う。

(1) 調査研究

- ・シャッター及びドアの耐環境性に関する研究を行う。
- ・窓シャッターの対飛来物衝撃性能の実力値の確認を行う。

(2) 技術基準等の策定

- ・技術基準の策定、改定を進める。

技術基準の策定

軽量シャッター技術基準、グリルシャッター技術基準、窓シャッター技術基準及び鋼製建具・鋼製軽量建具技術基準

技術基準の改定

オーバーヘッドドア技術基準及び高速シートシャッター技術基準

- ・技術基準の構成要素である設計基準、施工基準及び点検基準の策定、改定を進める。
- ・技術基準等の策定に関する調整を行う。
- 各技術委員会の情報の共有化を図るとともに、技術基準等の標準化について検討する。
- ・シャッター、ドア、耐火クロススクリーンの木造建築物（耐火構造及び準耐火構造）への納まりについて検討する。
- ・高速シートシャッターをグリーン購入法に基づく特定調達品目として、環境省に申請する。

(3) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の分析及びそれを踏まえた基準作りを行う。
- ・安全対策検討委員会を開催し、シャッター・ドアの安全対策について検討を行う。
- ・製品安全に関するガイドラインの策定等を行う。

高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドラインの策定

高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの策定

シャッター・オーバーヘッドドア用リモコンスイッチの誤操作等による事故防止に関するガイドラインの策定

- ・耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理を行う。
- ・協会のホームページを活用して安全普及を推進する。
- ・シャッター施工に関する技能検定制度の導入に取り組む。

(4) 維持管理における安全対策の推進

- ・製品安全普及事業の一環として、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の

必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動する。

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定制度を推進する。
- ・危害防止機構や障害物感知装置が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。

(5) 資料収集・普及事業

- ・シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査を行う。
- ・労働災害発生状況の調査を行う。
- ・防犯製品に関する情報提供を行う。
- ・浸水防止用設備の普及促進に係る取り組みを進める。
- ・会報・ホームページによる情報提供に努める。
- ・優秀工事従業者表彰を実施するとともに、優秀施工者の国土交通大臣顕彰及び土地・建設産業局長顕彰に関し推薦を行う。
- ・社会保険未加入対策を進める。
- ・ドア事業の推進に関し、新たな展開を図るための検討を進める。
- ・スチールドアに関する研修会を行う。

2 評定登録講習事業

所定の性能を有するシャッター及びドアに関する認定、登録、並びにシャッター、ドア及び防火設備の施工及び点検に関する人材育成を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法（CAS）の使用承認を行う。
- ・連動機構・装置等の自主評定を（一社）日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同で行う。
- ・防犯性能の高い建物部品の自主評定を警察庁等で組織する官民合同会議に参画して行う。

(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者制度に関する諮問委員会を運営し、5月をめぐりに取りまとめを行い、規定の改訂等の改善を図る。
- ・シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催し、保守点検を行う技術者の認定及び登録を行う。

(3) 防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・（一財）日本建築防災協会より委託を受け、防火設備検査員講習における実技講習を実施する。

第二章 特別事業

1 シャッター及びドアのストック対策の推進

2016年6月の改正建築基準法の施行により、防火設備であるシャッター・ドアに関する検査が義務化された。当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう引き

続き会員及び関係者の協力を求めている。

検査の実施に関しては、機動的に対応できる体制を協会内に整える。

防火設備の検査資格者については、講習制度の一環である実技講習を当協会が（一財）日本建築防災協会から委託を受け、昨年度は、2019年1月から2月まで実施した。当協会では本年度も引き続き実技講習を実施する。

製品安全普及事業については、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動を行う。

また、適切な維持管理の推進とあわせて、危害防止機構や障害物感知装置未設置のシャッターの解消に積極的に取り組むものとする。

このため、電動シャッター動作時の事故防止に係る安全普及活動リーフレットを所有者・管理者等に配布する。

さらに、会員に配布する協会作成の点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）のチラシ・ポスターを活用して、会員が建物管理者やユーザー向けに定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動するとともに、安全の確保を訴え、ユーザー等の安全性の向上を図られるよう活動する。これにより、協会の知名度、ブランド力の向上を図る。

（一社）日本サッシ協会、（一社）カーテンウォール・防火開口部協会、日本ロック工業会と合同の防火ドアのスマートキー交換に関するガイドライン検討会において、遮炎性に影響を及ぼさない内容について検討を実施する。

2 技能検定制導入への取り組み

シャッター・ドアの施工者の技能の向上を図る観点から、シャッター・ドアの施工者を対象に、国家資格である技能検定制の導入に向けた取り組みを進め、シャッター・ドア業界の地位の向上を図る。

このため、技能検定制における職種の追加、及び当協会が指定試験機関となる上で必要となる事項等について検討し、その結果を踏まえて関係機関との調整を行う。また、協会が技能検定制に先駆けて行うシャッター施工技能者資格認定試験を実施する。

3 シャッター JIS 改正

消費者安全調査委員会より意見のあった重量シャッター JIS、軽量シャッター JIS への安全装置等の規定化に向けて、JIS 原案作成本委員会を運営し、改正 JIS 原案を作成する。

4 浸水防止用設備に関する取り組みの推進

近年、増加している異常気象によるゲリラ豪雨に対応し、防災事業の一環として浸水防止用設備の普及が重要である。今年度は、昨年度に策定された浸水防止用設備 JIS 原案を基に、浸水防止用設備の JIS 制定に取り組む。

5 会員サービスの取り組み

全国の会員を訪問し、会員からの要望を聞き取る。協会会報の会員企業紹介コーナーの中で協会に期待することを掲載する。これらの要望に対し、協会としての会員サービスの取り組みを検討していくこととする。

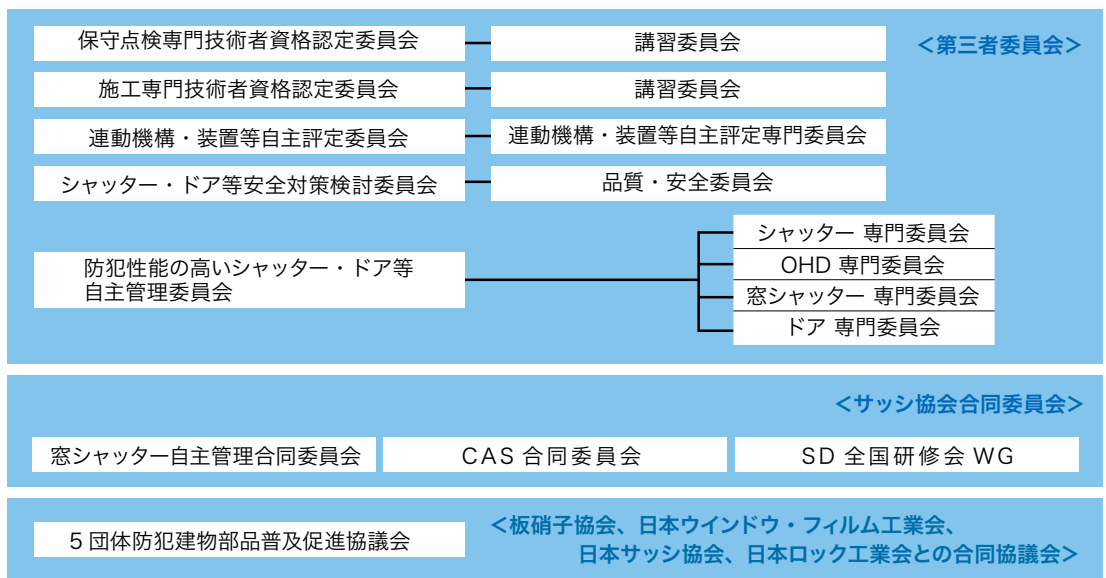
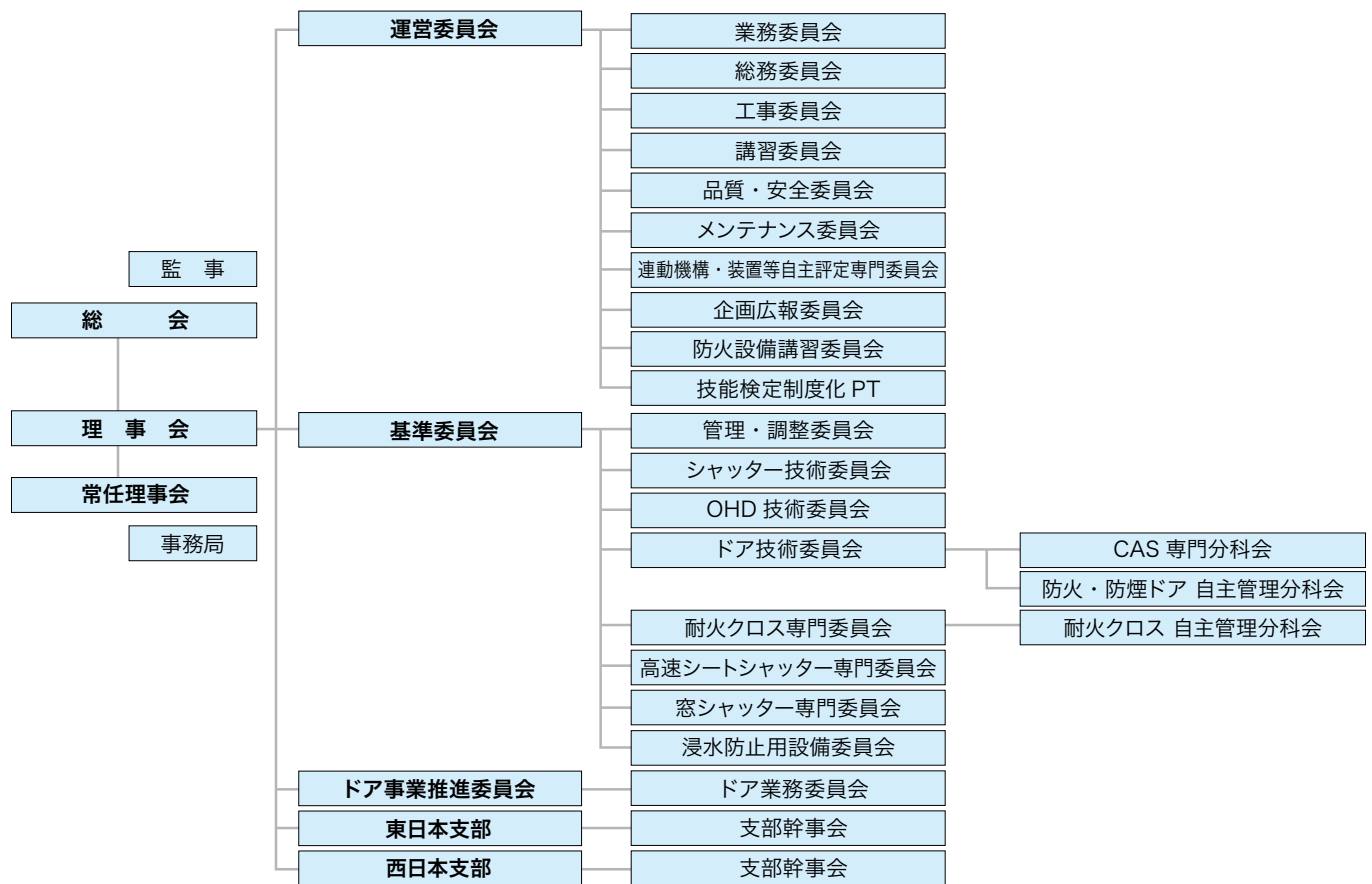
また、会員企業の研修会を実施する。

第一章及び第二章の事業を推進するため、協会活動の基

盤である会員の拡充を図るとともに、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関係団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

2019年度 運営組織図



建築の完成について 考える

株式会社 石本建築事務所
業務企画部門次長
環境統合技術室次長
東原 理子 氏
一級建築士・設備設計一級建築士



建築計画には様々な性能が求められているが、なかでも年々社会的に重要視されるテーマは環境配慮に対するものである。数年前に、建築と環境設備を統合的に計画する環境統合技術を盛込んだタワー型キャンパスの設計に携わった。大阪梅田に立地する、関西では珍しい都心キャンパスで環境配慮が重要なテーマとされた。各フロアは学修形態に合わせてフレキシブルに使えるオープンなつくりとし、学科や学年をつなぐ場が求められ、学生の集いの場となる吹抜け空間で各階をつなぐ構成とした。また外壁性能は高性能化して、南面には太陽光発電パネルを設置した日射遮蔽庇により創エネと省エネを同時に行う外装を特徴とし、北面は、面する吹抜けを構成するガラス面に超高性能断熱ガラスを採用し、断熱材を施したコンクリート壁と同等の断熱性能を持たせた。タワー型キャンパスの各階オープンなつくりと吹抜け空間という建築の構成は、環境配慮の方策の大きな骨子となるものである。

自然環境からは太陽光や地中熱、自然通風など様々な再生可能エネルギーをエネルギー最適化制御により活用し、ZES「ゼロエネルギースペース」というゼロエネルギー（消費エネルギー量を年間の太陽光発電量でゼロにする）となる場をもたせた。それが、学生の集いの場となる吹抜

空間である。学生を始めとした利用者の使い方によってこのZESが年々拡大していく計画である。都心キャンパスのあり方と高層建物の省エネルギー環境対策が特徴的な空間で構成でき、環境の最先端技術と建築を統合し創意工夫をこらした都心キャンパスタワーが完成した。

そして重要なのは、供用開始後の運用である。新しいタワー型キャンパスを使われるのは大学の皆様がメインである。既存キャンパスの片廊下や中廊下型の典型的な学校建築から移ってこられた。今までと使い勝手が異なるのは当然のことである。この特徴的なタワー型キャンパスを使いこなして頂くには大よそ3年ほど必要だと考えられた。1年目は各種制御等の調整期間となる。モックアップやシミュレーションを重ねて検証した制御でも実際の運用にはチューニングが必要となる。2年目は建物の維持管理者に1年目を経た建物の使い方を理解して運用して頂く。3年目で建物の利用者に直に使っていただく。その3年プロセスである。設計者は設計から実際の運用を鑑みて、使い方の最適解を見出しながら助言し続けなければいけない建物である。建物は出来上がって完成ではなく、その後の運用を見届けてから真の完成となる、その重要性を感じている。

NEWS

6/1 は点検の日

当協会では、昨年より6/1を点検の日、9/1を安全の日と定めて活動を行っています。点検の日は、法律で定められた防火設備の定期検査報告制度のPRの他に、シャッター・ドア・オーバーヘッドドアなどの商品を、安全に安心して使えるよう維持管理していくために、点検の重要性や必要性を所有者や使用者に周知することを目的としています。この周知活動のツールとして、ポスターとリーフレットを作成しました。

電動シャッターを安全にご使用いただくために

昨年、消費者安全調査委員会から「電動シャッター動作時の事故」について調査報告書が公表されました。当協会では消費者庁・経済産業省の後援をいただき、「電動シャッターを安全にご使用いただくために」のリーフレットを作成し、所有者・管理者・一般の方へ安全周知活動を実施しています。

どちらも、協会ホームページ (<http://www.jsd-a.or.jp>) からダウンロードできますのでご利用下さい。



新会員企業紹介コーナー

株式会社スガモトテント

所在地：石川県加賀市加茂町 307 番地

事業内容：カーテンシャッター「アベリア」（特許製品）。内照タワーサイン「ビーファイン」（特許製品）。大型テント倉庫「ビッグザウルス」。テント、シート製品の製造及び全国販売。



代表取締役社長
菅本 清二氏

● 当社の強み

テント生地とアルミ型材を斬新なアイデアで組み合わせて大開口でも簡単に間仕切れるカーテンシャッター「アベリア」とLED光源の内照タワーサイン「ビーファイン」「スクープ」の特許製品及び、内部の大空間に柱が1本も無い大型テント倉庫「ビッグザウルス」をお客様の役に立つ製品として全国に納品させて頂いています。

● JSDA に期待すること

テント生地は近年、多種多彩な素材が生まれ、また、色々な環境に適合する製品も多々あり、軽量かつ強度が高く、コンパクトに折り畳めるなどの特徴もあります。このような製品を世の中に普及させて行くため、幅広く情報提供の場を設けて頂きたいと思えます。



▲本社外観



▲アベリア



▲タワーサイン（昼）



▲タワーサイン（夜）

株式会社 長沢製作所

所在地：埼玉県比企郡嵐山町花見台 11-3

事業内容：自社ブランド建築金物（キーレックス、古代）とハウスメーカー、ドアメーカー、建材メーカー様等への OEM 製品の企画・デザイン・設計・製造・販売・メンテナンス



代表取締役社長
長沢 昌幸氏

● 当社の強み

自社工場による一貫生産体制により、安定の生産量と最高の品質を保っています。主力製品であるキーレックスはキーレス・オートロック・電気工事不要であり、戸建住宅から商業施設など幅広い環境でお使いいただいております。これからも全てのニーズに対応できるように、また更なる安心と安全を求め技術を追求して参ります。

● JSDA に期待すること

シャッター・ドア及び防火設備に関する情報提供と会員間での情報交換を期待しております。今後、弊社製品の安全対策、商品開発に役立てていきたいと思えます。



▲製品写真 1



▲製品写真 2



▲本社外観



第7回 会員企業紹介コーナー

株式会社日本ピット

所在地：大分県大分市下郡 3260 番地の 9

事業内容：配線ピット・排水ピット・防水板（浸水防止用設備）・防水扉の設計製造・販売・施工・保守

● 当社の強み

「全社員の知と汗を以って、社会を豊かにする製品とサービスを提供する」事を使命（ミッション）として、製品開発及び提案力の強みを活かし、営業を展開しています。また自社製品の責任施工、保守対応など、一貫対応により高い品質、安心、安全をご提供しております。

● JSDA に期待すること

浸水防水用設備委員会の JIS 化に向けた取り組みについて当社も方向性を一致させ取り組んで参る所存です。業界の技術レベルの向上、お客様の安心に資する成果となる事を期待しております。

● 地元のオススメスポット

大分は関アジ・関サバが全国で知られていますが実はフグも通の間では有名です。特に他県では味わえない肝和えは絶品です。美味しんぼあら川さんは大分のミシュランガイドでも紹介されたリーズナブルで美味しいお店です。



代表取締役社長
浦崎 希氏



▲本社外観



▲ふぐ刺し



▲美味しんぼあら川



▲防水板（脱着式）



▲防水板（脱着式）

株式会社 原製作所

所在地：徳島県三好市三野町加茂野宮字北西王地 1726 番地の 3

事業内容：金属製建具・ステンレスサッシドア・建築用装飾金物・パネル内装・外装の設計・製作

● 当社の強み

北に阿讃山脈、南には悠々と流れる吉野川と剣山へと続く山々。豊かな自然に抱かれ、弊社の工場はあります。ステンレス製サッシュの製造拠点として、精密な加工と緻密な作業が要求される各工程を、可能な限り早く正確に切断から組み立てまでを一貫して行っています。弊社は、スピード & サービスをモットーに邁進しています。

● JSDA に期待すること

業界の最新情報、今後の市場動向、働き方改革等の情報提供を期待します。

● 地元のオススメスポット

吉野川の流れが削りだした渓谷美で知られる景勝地「大歩危小歩危（おおぼけこぼけ）」。そこでは、岸壁の雄大さとエメラルドグリーン美しい流れがつくる絶景を堪能でき、少し足を延ばせば奥祖谷の秘境があります。



▲大歩危小歩危



▲アルファスマート鏡川



▲本社外観



▲瀬戸センター



代表取締役
原 功氏

第6回 委員会紹介コーナー

JSDAの委員会は何をしているか、皆さんご存知ですか？業界の明日のために頑張っています！各委員会の活動を委員の皆さんのコメントとともに紹介します。

防火設備講習委員会

中内 勝也委員長より（三和シャッター工業）

◆活動意義について… 防火設備の定期検査報告は、経過措置期間が今年5月末で終了し、6月から本格的な運用が始まります。当協会の会員各社は、この制度に対してしっかり取組みを行っていき責務を負っていると同時に、実施率の向上と制度の定着に向けた活動をさらに推進していくことも、社会から求められていると思っています。

◆今年度の目標… 防火設備定期検査における検査内容の専門性や重要性が正しく理解されるよう、建築士事務所協会や自治体が主催する講習会などに、積極的に講師を派遣して普及活動を行いました。今年度も実技講習も引き続き円滑に進むよう、委員全員で取り組んでいきます。

◆委員長のコメント… 昨今、大型倉庫の大規模火災や商業施設などの火災が相次いでいることを考えても、消防用設備と防火設備が両面でしっかり維持管理されてはじめて、火災による被害拡大が防止されるのではないかと思います。今後も継続して、この点について声を大にし続けていくことは、シャッターメーカーの使命であるとも考えます。

各社委員の皆さんより（五十音順）

上野 耕平（三和シャッター工業）

◆防火設備検査員には業務基準に基づいた正確な検査が求められます。当委員会では、修了検査合格者で実技講習を免除されない、主に火報・防災業者の方々を対象に実機を使い検査体験させる実技講習を担当しており、受講者に防火シャッターの構造や検査方法を理解させ正確な検査が出来るよう講習内容の充実化に取り組んでいます。

連動機構・装置等自主評定専門委員

大館 一樹委員長より（文化シャッター）

◆活動意義について… 連動機構・装置等の設計品質や製造品質確保のため、各社が開発、設計した防火戸・防火シャッターに用いられる自動閉鎖装置や危害防止用連動中継器などが、連動機構・装置等自主評定委員会ですら定められた規定や構造基準に準拠されているか審査を行っています。

◆今年度の目標… 連動機構・装置等の審査（書類審査や立会試験）及び連動機構・装置等自主評定委員会（本委員会）への申請報告を適宜行って参ります。また連動機構の規定・申請マニュアルにおいて、運用面でわかりにくい部分の見直しを火災報知器工業会、日本防排煙工業会と協力して進めます。（来年度改正予定）

◆委員長のコメント… 各社から申請される書類や製品の審査は、防火設備の性能や品質確保に重要な役割を担っていると考えております。正確に審査を行うことで設計品質の確保ができ、それが業界全体の信頼や信用に繋がると思っていますので、引き続き責任を持って取り組んで参ります。



岡本 光永（文化シャッター）

◆当委員会は、2016年6月に新たに施行された、防火設備定期検査報告制度を適切に実施するため、業界としての定期検査方法及び判定基準等の資料作成を行い、また日本建築防災協会より委託を受けた、防火設備検査員講習の実技講習の実施（開催会場決定、実機体の設営及び講師の育成・配置等）を担当しています。

鮫島 敏郎（東洋シャッター）

◆「防火設備定期検査報告制度」の実施に重要な役割を果たす「防火設備講習委員会」に委員会立上げ時より委員として参画でき非常にうれしく思っております。これからも「初心忘れるべからず」一生懸命取り組んでいきます。

益子 隆雄（文化シャッター）

◆2016年度より始めました国土交通大臣登録「防火設備検査員講習」は2018年で4回目となりました。当協会が受託、運営する実技講習は、これまで多くの会員企業の講師の方の協力を得て開催する事ができました。今年度の本格運用以降も、防火設備のプロ集団として社会的責任を果たすことを祈念します。

米澤 寛（LIXIL 鈴木シャッター）

◆2018年10月より委員会に参加しています。2019年度より、防火設備検査は試行期間を終え、毎年実施になり、検査員も重要な役割で注目されています。その検査員の実技講習が滞りなく実施出来るよう、僅かではありますが注力して行きます。



各社委員の皆さんより（五十音順）

浅見 優次（三和シャッター工業）

◆当委員会は防火シャッターに使用される機器について、適正な機能の確保及び品質の保持を目的に、各社から申請される書類の審査や機器の立会い審査を行っています。防火設備の定期検査報告制度化により、防火シャッターの品質はますます顕在化されますので、今後も気を引き締めて活動に携わっていきたく思います。

岡本 和由（LIXIL 鈴木シャッター）

◆委員会では、各社からの申請案件を書類審査・立会試験などを実施しています。また、他の委員会での技術標準作成時の連動機構部分の見直し等、電気に係る部分で貢献していると考えております。今後も、自主評定専門委員として、諸規定・構造基準などを他の委員と討議し製品品質の維持・向上が図れるよう取り組んでいきます。

渡邊 昌彦（東洋シャッター）

◆防火シャッターに使用する自動閉鎖装置や危害防止用連動中継器を審査することは非常に重要なことと認識しています。各社からの申請機器が決められた基準を満足しているか、これからもしっかり審査し、世の中の防火シャッターの信頼性維持に努めて参ります。

鎌倉 長谷寺

鎌倉、長谷寺の散策に行ってきました。梅雨のこの時期、鎌倉ではあじさい寺として明月院と並んでたくさんの人が訪れる人気のお寺です。江ノ島電鉄「長谷」駅から鎌倉大仏方面へ5分ほど歩くと長谷寺の山門が見えてきます。大きな提灯が特徴的です。今は「令和元年」と大書した立て看板も目に入ります。拝観券を購入し中に入りました。さすがにこの時期の混雑は仕方なく「あじさい路」への入場には整理券が配られます。順路に沿って進むと山肌を埋め尽くすように色とりどりのあじさいが咲いています。40種類以上のあじさいが植えられているそうで見応え十分です。又順路の途中で広がる鎌倉の街並みと由比ヶ浜、遠くには逗子も見える眺望は絶景です。四季を通して楽しめる長谷寺、秋の紅葉の季節に訪れたいと思います。



住所：東京都豊島区北大塚 2-26-3 金田ビル 1F
電話：03-3910-5617

ぼんご

今回ご紹介するのは昭和35年開業の大塚にあるおにぎり専門店「ぼんご」さんです。

こちらのお店はにぎらないおにぎりとしてメディアでも頻繁に取り上げられています。

おにぎりとして一番重要なお米へのこだわりはもちろんのこと、お米にマッチングする塩や海苔もこだわり抜いたものを使っているそうです。

具材の種類が豊富な上に、トッピングが可能なので自分だけのアレンジが楽しめます。

どれも試してみたいくなるお味なので何度でも通いたくなること間違いなしです。

持帰りも可能で、事前に電話注文していくとスムーズです。

トッピング	NEW ベスト10	価格
①さけ	①さけ	250円
②まぐろ	②まぐろ	550円
③卵黄	③卵黄	300円
④生たらこ	④生たらこ	250円
⑤明太子	⑤明太子	250円
⑥ホッケ	⑥ホッケ	250円
⑦アサギ	⑦アサギ	250円
⑧アサギ	⑧アサギ	250円
⑨アサギ	⑨アサギ	250円
⑩アサギ	⑩アサギ	250円

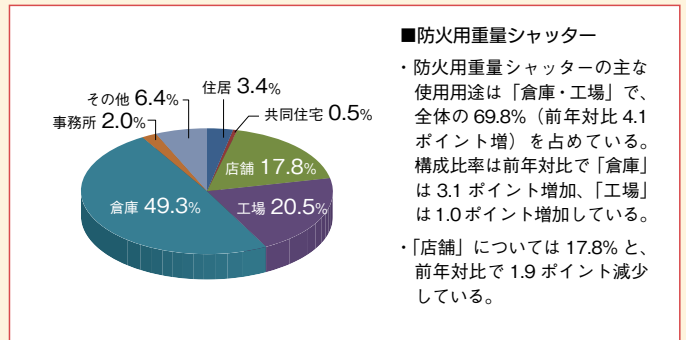
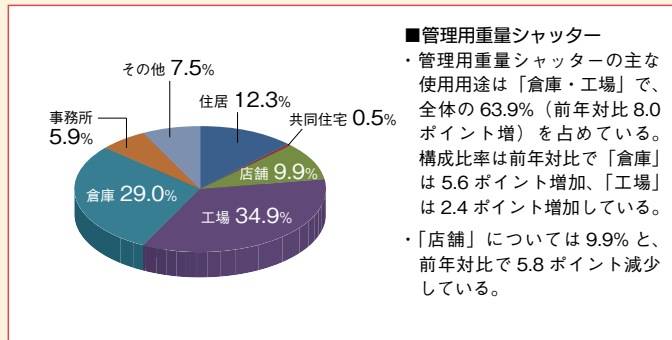
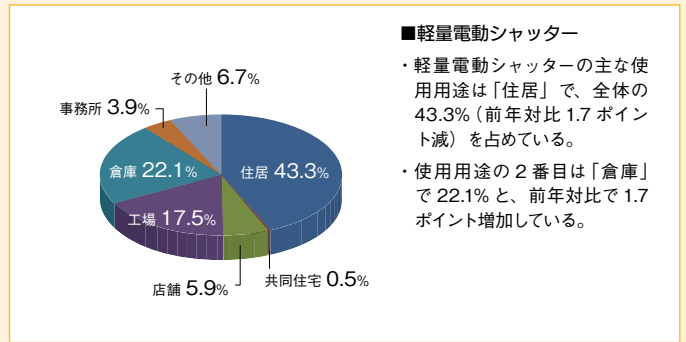
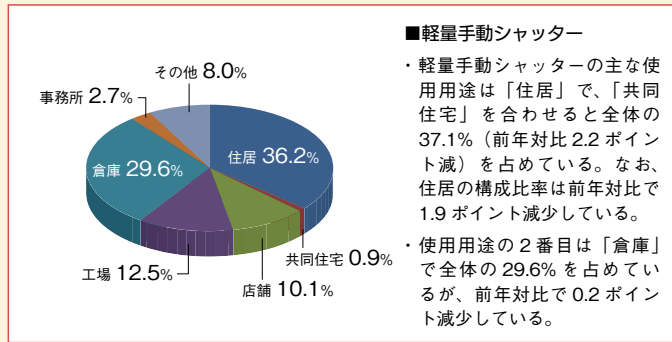


シャッターの使用状況調査 2018

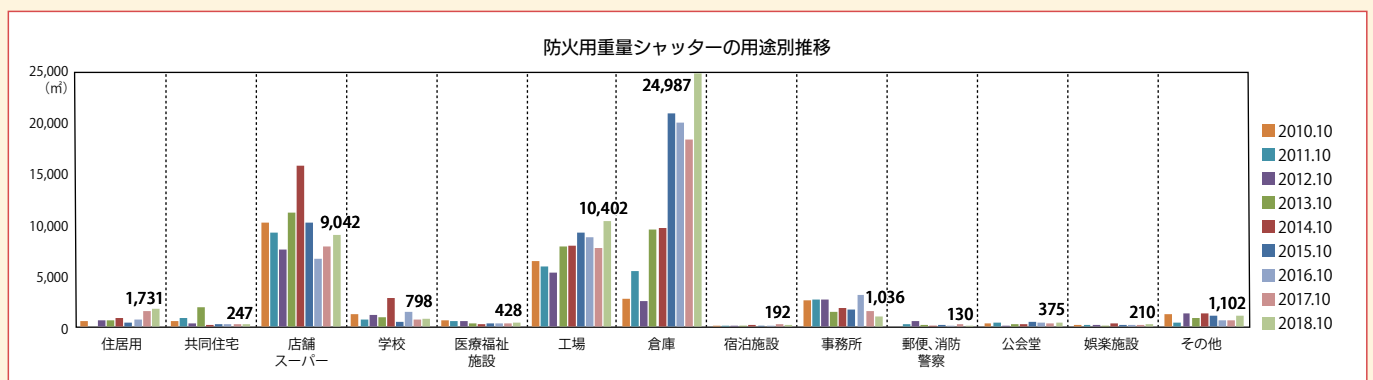
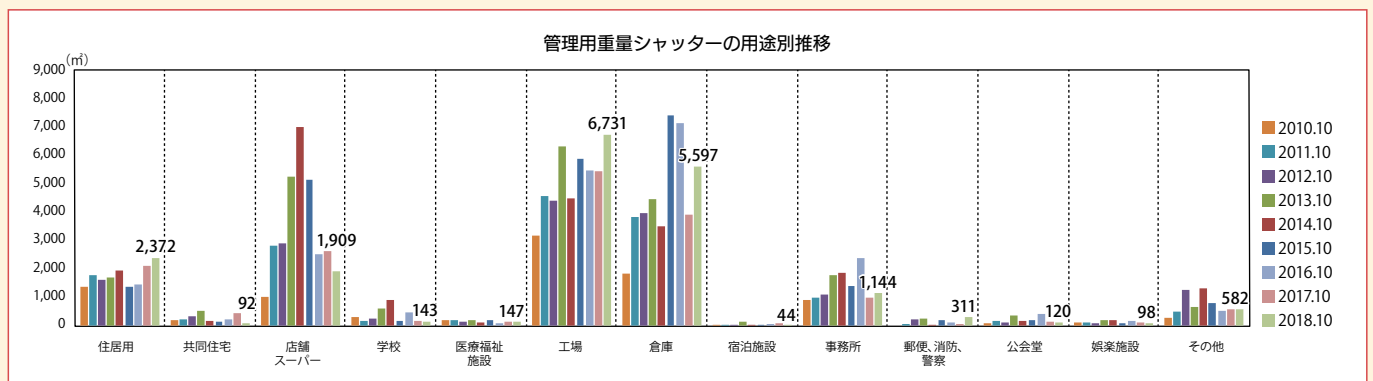
2010年より毎年業務委員会で調査しているシャッターの使用状況調査について、2018年分の一部を抜粋して紹介します。この調査は、年間通じて平均的なデータを収集できる毎年10月の1ヶ月間の売上物件データをもとに、各種シャッターの建物用途別都道府県別の使用状況と年推移等をデータ化しています。

なお、調査概要については13ページ下を参照ください。

◆製品別用途別使用状況

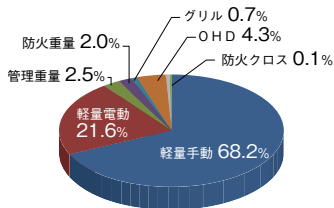


◆管理用 & 防火用重量シャッターの用途別推移



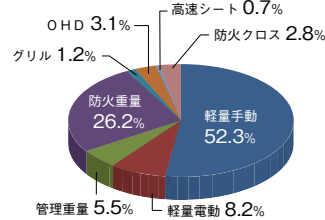
◆主な用途別使用製品状況 (2018.10)

■住居



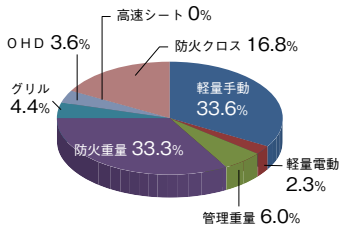
- ・住居に設置される製品は、手動と電動を合わせた軽量シャッターの合計で89.8%を占めている。
- ・軽量手動シャッターが前年対比6.2ポイント増加したが、軽量電動シャッターは5.2ポイント減少している。

■店舗



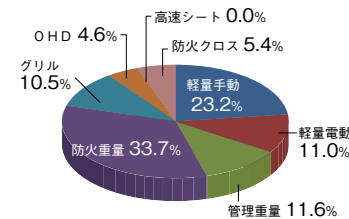
- ・店舗に設置される製品は、手動と電動を合わせた軽量シャッターの合計で60.5%を占めている。前年対比で8.3ポイント増加している。
- ・防火用重量シャッターと管理用重量シャッターを合わせた重量シャッターの合計は31.7%と、前年対比で9.2ポイント減少している。

■学校



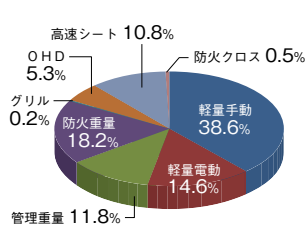
- ・学校に設置される製品は、軽量手動シャッターの割合が高くなっており、33.6%を占めている。前年対比では6.5ポイント増加している。

■医療福祉施設



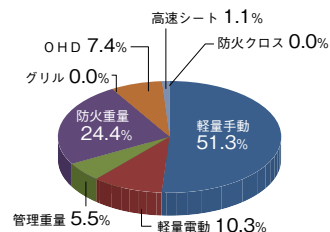
- ・医療福祉施設に設置される製品は、防火用重量シャッターの割合が高くなっており、33.7%を占めている。前年対比では14.4ポイント増加している。

■工場



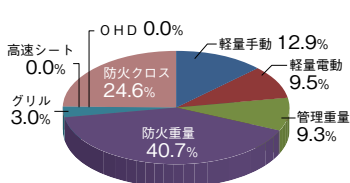
- ・工場に設置される製品は、軽量シャッターが53.2%、重量シャッターは30.0%を占めている。
- ・高速シートシャッターの割合が昨年まで、増加傾向だったが、前年対比で3.5%と減少している。

■倉庫



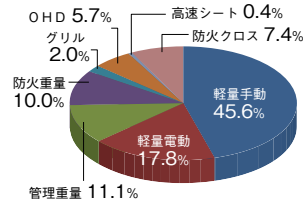
- ・倉庫に設置される製品は、重量シャッターが、全体の29.9%を占めており、前年対比で0.3ポイント減少している。
- ・手動、電動を合わせた軽量シャッターの割合は61.6%占めており、前年対比で2.5ポイント増加している。

■宿泊施設



- ・宿泊施設に設置される製品は、防火用重量シャッターの割合が40.7%を占めているが、前年対比で9.0ポイント減少している。
- ・耐火クロススクリーンの割合が前年対比10.9ポイントと大きく増加している。

■事務所



- ・事務所に設置される製品は、軽量シャッターの割合が63.4%を占めているが、前年対比で7.2ポイント増加している。
- ・防火用と管理用を含めた重量シャッターは21.1%と、前年対比で10.7ポイント減少している。

調査概要

1. シャッターの種類：

軽量シャッター、軽量電動シャッター、管理用重量シャッター、防火用重量シャッター（特定防火設備）、グリルシャッター（軽量、重量）、オーバーヘッドドア、耐火クロスシャッター、高速シートシャッター

2. 集計単位：売上数量（㎡）

3. 建物用途区分：

- ①住居用、②共同住宅、③店舗・スーパー・百貨店、④学校、⑤医療・福祉施設、⑥工場、⑦倉庫、⑧宿泊施設（下宿、寄宿舎含む）、⑨事務所、⑩郵便局、消防署、警察署、駅舎、空港、⑪公会堂・集会所・博物館・美術館・研究所・寺院・教会、⑫娯楽施設（体育館、浴場、劇場、球場、映画館含む）、⑬その他

4. 調査地区：47都道府県

5. 調査期間：2018年10月（1ヶ月間）の売上物件

6. 調査協力企業：日本シャッター・ドア協会会員（12社）

新会員について

今年度は、第二種会員として新たに4社、準会員として2社、賛助会員として3社の入会があり、5月末時点での会員数は178社となりました。

統計データ

■過去1年間出荷推移 < シャッター >

(㎡、前年比・電動化率%)

	2018年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月	3月
重量シャッター	80,435	82,899	83,248	90,661	79,490	89,478	114,211	122,192	109,523	95,368	102,112	100,162
前年比	-1.6	9.2	-2.1	8.4	-14.3	-16.9	7.6	25.1	15.3	11.8	22.7	7.2
軽量シャッター	182,107	179,280	182,432	187,406	166,606	207,966	294,147	278,842	202,673	155,717	164,267	171,975
前年比	5.7	-0.6	-4.2	8.1	-0.4	16.4	47.7	23.3	11.9	9.1	11.0	-3.3
電動化率	27.6	28.8	29.5	28.6	29.0	23.6	22.3	23.5	27.4	27.3	28.7	28.4
グリルシャッター	2,305	2,180	2,766	3,022	2,352	2,687	3,280	3,608	3,528	2,694	2,978	2,804
前年比	-10.7	-7.3	6.8	7.1	-17.6	-4.7	24.3	7.8	14.5	-8.0	15.8	-10.0
オーバーヘッドドア	19,341	19,474	20,699	24,380	21,629	21,385	27,841	28,160	27,040	21,248	19,951	23,936
前年比	10.5	6.8	-3.6	15.4	-3.8	-17.8	-2.3	2.0	1.4	14.5	-5.1	16.2
合計	284,188	283,833	289,145	305,469	270,077	321,516	439,479	432,802	342,764	275,027	289,308	298,877
前年比	1.0	1.0	1.0	1.1	0.9	1.0	1.3	1.2	1.1	1.1	1.1	1.0

< ドア >

(枚、前年比%)

	2018年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月	3月
鋼製重量ドア	27,418	32,055	34,266	39,180	38,302	45,488	37,943	45,989	40,549	35,792	46,564	54,307
前年比	-16.1	-4.1	-7.8	8.8	8.0	15.5	1.8	13.4	-8.7	2.3	8.5	-5.0
鋼製軽量ドア	22,515	24,724	28,174	29,811	28,289	28,616	33,641	37,495	35,335	34,879	35,662	31,217
前年比	3.3	1.9	8.5	15.6	-6.5	-20.6	-6.5	7.7	2.6	3.0	-12.3	-12.7

■年度別出荷推移 < シャッター >

(㎡、前年比・電動化率%)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
重量シャッター	1,436,147	1,365,508	839,568	839,415	875,978	993,232	1,145,215	1,090,735	1,186,252	1,073,117	1,087,339	1,149,779
前年比	-6.4	-4.9	-38.5	-0.0	4.4	13.4	15.3	-4.8	8.8	-9.5	1.3	5.7
軽量シャッター	2,488,705	2,175,375	1,972,917	1,915,847	2,039,568	2,271,832	2,320,018	2,120,235	2,176,807	2,124,636	2,137,301	2,373,418
前年比	-13.3	-12.6	-9.3	-2.9	6.5	11.4	2.1	-8.6	2.7	-2.4	0.6	11.0
電動化率	26.3	25.4	24.5	26.2	24.5	24.0	23.5	26.5	27.0	27.7	28.2	27.1
グリルシャッター	79,124	61,751	54,719	52,483	55,410	53,207	56,361	48,210	42,245	38,867	33,703	34,204
前年比	-12.7	-22.0	-11.4	-4.1	5.6	-4.0	5.9	-14.5	-12.4	-8.0	-13.3	1.5
オーバーヘッドドア	240,523	217,932	174,936	178,341	204,003	226,406	269,558	242,275	272,597	275,529	269,799	275,084
前年比	-16.9	-9.4	-19.7	1.9	14.4	11	-12.8	-10.1	12.5	1.1	-2.1	2.0
合計	4,244,499	3,820,566	3,042,140	2,986,086	3,174,959	3,544,677	3,791,152	3,501,455	3,677,901	3,512,149	3,528,152	3,832,485
前年比	-11.3	-10.0	-20.4	-1.8	6.3	11.6	7.0	-7.6	5.0	-4.5	0.5	8.6

< ドア >

(枚、前年比%)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
鋼製重量ドア	635,875	493,689	436,415	448,242	449,988	470,919	450,218	488,835	466,030	452,650	471,440	477,853
前年比	-0.6	-22.4	-11.6	2.7	0.4	4.7	-4.4	8.6	-4.7	-2.9	4.2	1.4
鋼製軽量ドア	1,003,218	888,996	680,918	618,079	574,528	415,782	415,591	432,918	388,787	363,251	379,620	370,358
前年比	3.3	-11.4	-23.4	-9.2	-7.0	14.5	-0.0	4.2	-10.2	-6.6	4.5	-2.4

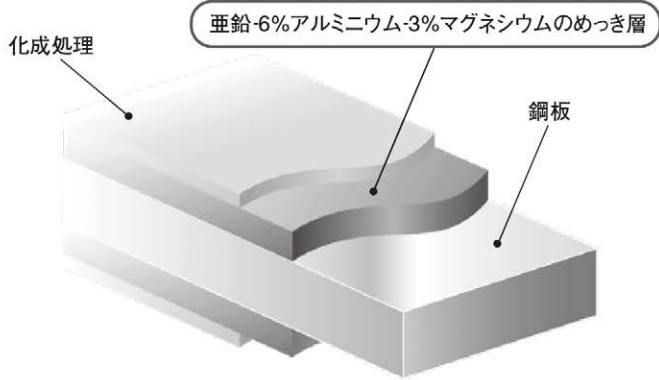
注)・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。
・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。

高耐食溶融めっき鋼板

ZAM®とは

亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウムのめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。

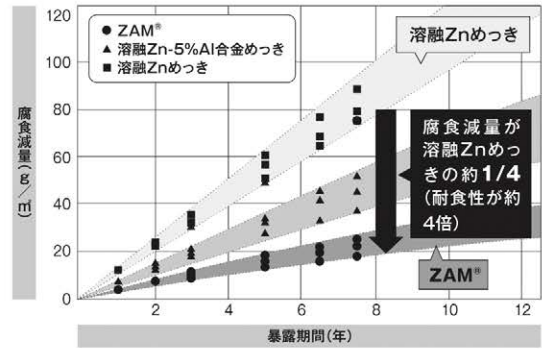
製品構成



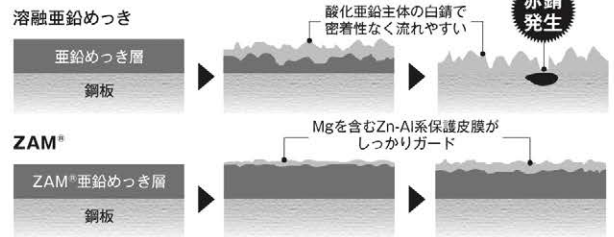
サビに強いめっき鋼板

優れた耐食性

■屋外暴露試験(一般環境)



■平坦部の耐食メカニズム



[ZAM] (登録商標第4637134号)は、日新製鋼株式会社の登録商標です。ZAM®は製品特許および製造特許済みです。©2019 NIPPON STEEL NISSHIN CO., LTD. All Rights Reserved.

NIPPON STEEL | **日鉄日新製鋼**

- 本 社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL. 03-3216-5166
- 大阪支社 ●名古屋支社 ●中四国支社 ●北海道支店 ●東北支店 ●新潟支店
- 北陸支店 ●四国支店 ●九州支店

箱根神社と芦ノ湖（神奈川県）

芦ノ湖のほとりにある箱根神社は、箱根を代表する名所。朱色の豪華で鮮やかな建物は権現造（ごんげんづくり）の建築様式が用いられている。権現造とは、本殿と拝殿の2棟を前後で一体化し、間に「石の間（いしのま）」と呼ばれる一段低い建物を設けているのが特徴。平安時代に始まり、日光の東照宮がこの様式を採用して以来、近世の神社建築で多く用いられるようになった。

また、箱根神社の境内にある九頭龍神社は芦ノ湖に伝わる九頭龍伝説の聖地。その昔、箱根神社の神様「箱根大神」は、芦ノ湖で荒れ狂う9つの頭を持つ毒龍を調伏し、それ以来龍神となった「九頭龍大神」が芦ノ湖の神様となったと言われている。

毎年7月31日に九頭龍大神の祭典「湖水まつり」が芦ノ湖周辺で開催される。湖水まつりを皮切りに6夜連続で花火大会や祭事が行われる芦ノ湖夏祭りウィークは、箱根・芦ノ湖の夏の風物詩となっている。



▲芦ノ湖と箱根神社の「平和の鳥居」



▲箱根神社の拝殿。奥には石の間、その先に本殿が続く。

JSDA 会報 2019年・初夏号

発行日:2019年7月 通巻第57号

発行者:一般社団法人日本シャッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北3丁目2-5 九段北325ビル8階

tel.03-3288-1281 (代) /fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsda.or.jp>